

特集

Feature

キャリア教育を一步進める 『校内連携』事例40

非協力的、無関心な同僚をどう巻き込もうとしている？

校内連携 **ウラワザ** 集

日頃の関係づくり

質問に厭わず答える

特に年配の先生からのパソコンの質問などには、時間を厭わず答え、人間関係をつくっておく。

相手の考えも理解しておく

日頃から非協力的な先生方と緊密な人間関係を築くようにする。こちらからのお願いや要望だけでなく、相手が望んでいることや考えを理解するように努める。

これまでの取り組みを聞いておく

専門科の授業のことやこれまでの地域の取り組みなど、長年取り組んでこられた先生には、努めてこれまでのことをいろいろ聞いておく。先生の取り組みに是非キャリア教育をつなげていきたいといったアプローチをする。

学年代表とコミュニケーション

学年団中心で、進路行事やキャリア教育の取り組みを進めるので、学年代表に事前に協力を求める。また、学年代表とは日頃から、コミュニケーションをしっかりと取り、信頼関係をつくっておく。

仲のいい人を味方につけることも

「非協力」という状況は、案の出し方によるので、コミュニケーションを日頃から図ることが大切。概してそういう人は、キャリア教育に関してのみにそういう態度であるのではなく、その他のことに対しても同様の態度であるはず。その人とコミュニケーションを取りづらいうらわさず、その人の仲のいい人に味方になってもらって、説得してもらおうようにしています。

話題にする

食事のときに

私自身が推し進める企画について食事のときなどに話題にして、その教育的効果について「宣伝」をしている。

あらゆるレベルの集まりで

実施を急がず、教育課程の委員会や研修会、学年会、飲み会などあらゆるレベルの集まりで話題に出しておく。

成功を広げる

成果を通信で発表

まず自分がやってみて、何か成果を出し、通信などで発表し、反応があった先生にはかなりフォローして少しずつ広げる。

生徒の変化を見せる

キャリア教育に関する情報発信や取り組みを頻繁にコピーして配布。進路通信のようなものを作成して進行状況の報告を根気強く行う。ミーティングや会議の結果もすぐに配って見てもらっておき、情報を絶えず伝える。また、なるべく一緒に携わり、生徒が変わっていく様子を見て実感してもらう。

既成事実で納得してもらう

実際にインターンシップを展開してしまい、既成事実で成功例を見せることで納得してもらう。

まず3、4人の仲間で進める

学校の企画などは3、4人が動けば何とかできるケースが多いので、仲間で走ってしまう。そのゴーサインの判断基準は、それが生徒のためになるかどうか。なるなら失敗覚悟でまず走る。生徒がついてくればしめたもの。消極的な教員も一緒にやってくれるようになる。

教科や行事など様々な取り組みを関連付けてキャリア教育を進めるために、教師間の連携が求められている。そうした中で先生方が連携したからこそ得られる喜びがあるのではないだろうか。今号は、校内連携について特集。先生方が同僚から協力や理解を得るために行った試みを“ウラウザ”集として掲載する。それとともに、校内連携に関する12校の手法を目的別に、さらには総合的な取り組み事例として2校を紹介する。

根まわし

「自分も困っている」とこぼす

自分も困っているのだが、上からの圧力が...とこぼす。また話ができる先生から根回しをしておく。

ベテラン教員同士話してもらう

ベテラン教員に理解を得るために、自分のような若造から言われると絶対にやらないので、決して自分が表にたたないように、裏から手を回して、ベテラン同士話をつけてもらう。

鶴の一声的存在に

特に大事な会議で検討される事項は反対勢力や“鶴の一声的存在”には予め「相談」という形で言及しておく。

理解とやる気がある若手に

理解とやる気のある若手を巻き込む。関係分掌や委員会等において。その際、自分も推進者の一人として加わる。「私と一緒にやろう」。ただし、実践の主役は該当分掌の教師である。外堀を埋めるという方法。

担当の先生には早期に内々に

お互いに人間だから、お願いの仕方ひとつで、引き受ける人の気持ちもだいぶ違うのではないかと。直接担当になられる先生が職員会議などで提案されて初めて内容や担当の仕事を知ることになれば、やはり気分を害され、ご協力いただけるものも、そうならないのではないかと。だから、直接担当される先生には、「申し訳ないのですが」といって早い段階で内々にお話している。

反対するとと思われる教員に

特に大きく反対するとと思われる教員に事前に意義を説いて根回しする。一応、運営会議・職員会議等で反論はされるが大きく頓挫しない。

特に他校での担当経験者に

前任校及び他校で、進路担当を経験された先生方から特に協力してもらう。進路担当を経験された先生方は苦労しているから、協力してくれる。失敗談やアイデアは参考になる。

外部の力を借りる

OB会の協力を得る

OB会の協力を得ている。OB会が積極的に協力くださっているからには、教員側が動かないわけにはいかない。そういう雰囲気作りを目指して。

教育業界の人に会議で発言してもらう

定期的にくる予備校のスタッフら教育業界の人の相談にのってもらう。ときに会議で直接発言してもらうようセッティングし、外部からの風を吹かす。

役割分担

全員が取り組むよう必修化

やらざるをえないように担当になってもらう。全員が取り組むように必修化を図る。

体験学習の引率を色々な先生に

グループ別の職場体験学習の引率を進路や担任だけではなく、色々な先生にお願いする。

サポート体制も必要

職務として協力を仰ぐ形がうまくいった。サポート体制も必要。

その他

カタカナ用語を前面に押し立てない

例えば、キャリア、コラボレーションなど、目新しいカタカナ用語を、前面に押し立てない。うさんくさく思われ、拒絶反応がある。

現行活動がキャリア教育に結びつくと説明

現在の教育活動で既にキャリア教育と結びついているものを例

にして説明する。抵抗感をとってもらいながらキャリア教育という言葉に慣れてもらう。

スタートはすべてお膳立てする

スタート時は、担当職員がすべてお膳立てをする必要がある。詳細な指導案・指導資料を作成し、マニュアル通りにやればよいようにする。